



90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番号 ばんごう	上の句 うへ	下の句 した	作者 さくしゃ
見せばやな雄島のあまの袖だにも	玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば	難波江の蘆のかりねのひとよゆゑ	村雨の露もまだひぬ榎の葉に	嘆けとて月やは物を思はする	夜もすがら物思ふころは明けやらで	ながらへばまたこの頃やしのばれむ	世の中よ道こそなけれ思ひ入る	思ひわびさても命はあるものを	ほととぎす鳴きつる方を眺むれば	ばんごう	上の句 うへ	下の句 した	作者 さくしゃ
みせばやなおじまのあまのそでだにも	たまのおよたえなばたえねながらへば	なにわえのあしのかりねのひとよゆゑ	むらさめのつゆもまだひぬまきのはに	なげけとてつきやはものをおもわする	よもすがらものおもうころはあけやらで	ながらえばまたこのごろやしのばれん	よのなかよみちこそなけれおもいいる	おもいわびさてもいのちはあるものを	ほととぎすなきつるかたをながむれば	ばんごう	上の句 うへ	下の句 した	作者 さくしゃ
濡れにぞ濡れし色はかはらず	忍ぶることの弱りもぞする	みをつくしてやこいわたるべき	霧たちのぼる秋の夕暮	かこちがおなるわがなみだかな	閨のひまさきへつれなかりけり	憂しと見し世ぞ今は恋しき	山の奥にも鹿ぞ鳴くなる	憂きに堪へぬは涙なりけり	ただ有明の月ぞ残れる	ばんごう	上の句 うへ	下の句 した	作者 さくしゃ
いんぶもんいんのたいふ	式子内親王	しよくしなしいんのう	皇嘉門院別当	さいぎようほうし	しゅんえほうし	藤原清輔朝臣	皇太后宮大夫俊成	道因法師	後徳大寺左大臣	ばんごう	上の句 うへ	下の句 した	作者 さくしゃ
殷富門院大輔	式子内親王	しよくしなしいんのう	皇嘉門院別当	さいぎようほうし	しゅんえほうし	藤原清輔朝臣	皇太后宮大夫俊成	道因法師	後徳大寺左大臣	ばんごう	上の句 うへ	下の句 した	作者 さくしゃ